

英語科・英語活動

英語科・英語活動部 高橋 洋介 関口 桜子
研究協力者 上原 景子

1 育成を目指す資質・能力

主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力

2 育成を目指す資質・能力について

英語を取り扱う本校英語科・英語活動では、「未来を拓く子ども」の育成のために、「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」を育むことが必要であると捉えた。「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る」とは、英語を用いて自ら声をかけて相手の反応を確かめながら話したり質問・返答をしながら聞いたりすることである。この資質・能力が育まれることで、他者とコミュニケーションを図りながら、よりよい解決を追究し続けることができるようになる。これは外国語科・外国語活動に求められる、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手や他者に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことにつながる。この資質・能力を育むためには、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、問題解決を図る中で、子どもの「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱が相互に関係し合うことが大切である。以下は、資質・能力の三つの柱の具体と、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方である（図1）。

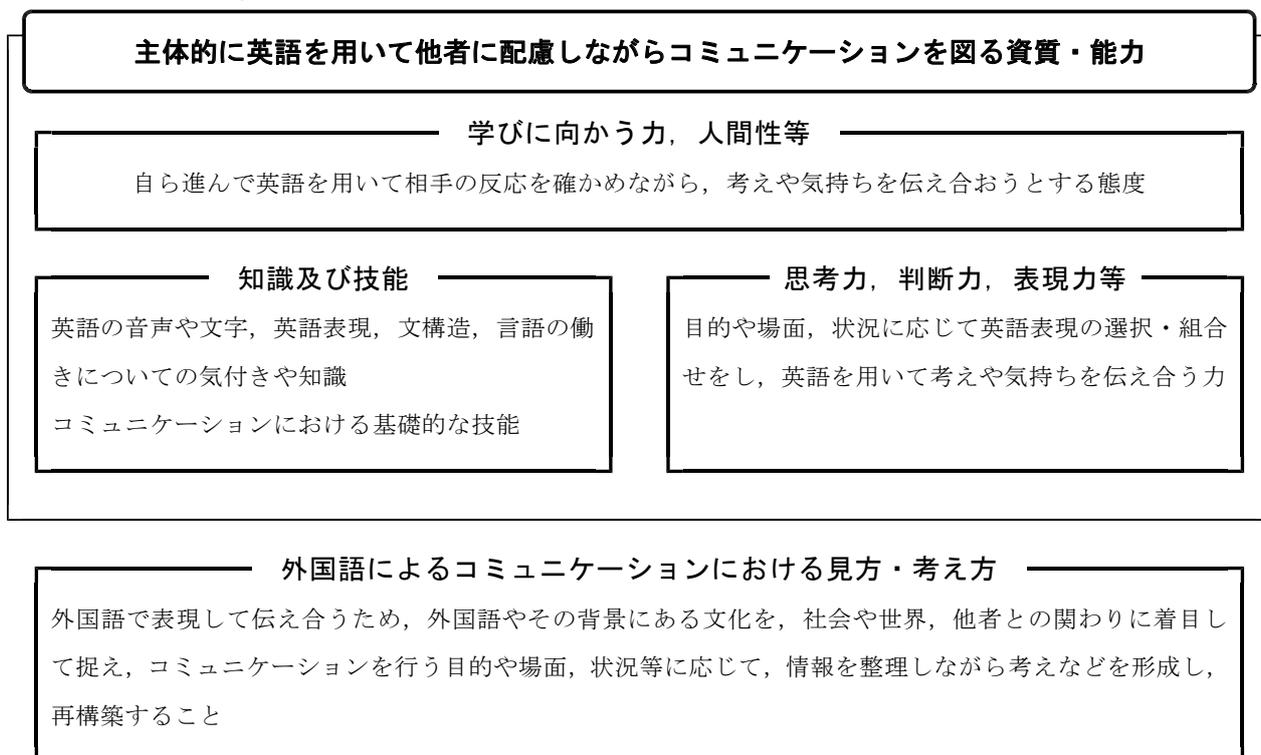


図1 本校英語科・英語活動が育成を目指す資質・能力の三つの柱と「見方・考え方」

3 研究の方向

これまでの研究において、次頁のような学習指導の工夫を行った。

＜学習指導の工夫＞○子ども同士のモデルを基にコミュニケーションポイントを確認する機会の設定
○既習の質問・返答をする英語表現をまとめたQuestion ListやReaction Wordsの提示

その結果、相手からの質問を受けて返答をし、その返答の内容をふまえて自らの考えや気持ちを分かりやすく伝えたり、自らの表現と友達の表現を比較して声の大きさや速さ等の伝え方を工夫したりする姿が見られた。このような子どもは、繰り返しコミュニケーションを図ることを通して、相手の反応に応じて自らの表現を振り返り、英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝えることができていた。これは、他者に配慮しながらコミュニケーションを図ることにつながったといえる。

その一方で、自らの考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えたり伝え方を改善したりできない子どもの姿も見られた。これは、目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することといった「見方・考え方」を働かせることが不十分な姿といえる。その原因を次のように考える。

原因①課題を解決した具体的な姿が明確でなく、伝える際に改善すべき点が分からなかったため。
原因②相手に分かりやすく伝えるための英語表現の内容や構成の工夫の仕方が分からず、主体的にコミュニケーションを図ることにつながらなかったため。

これらの原因を解消することで、より多くの子どもが外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、他者に配慮しながらコミュニケーションを図ることにつながると考えた。

そこで、本年次は、英語科・英語活動において育む資質・能力の育成に向け、自らの考えや気持ちに合った英語表現の選択・組合せがしやすい「話すこと（発表）」の領域において「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ学習指導の面から授業改善を行う研究を進めていくこととした。

4 研究内容

（1）英語科・英語活動を学ぶ本質的意義と「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

本校英語科・英語活動において育む資質・能力の育成に向け、以下のように、英語科・英語活動を学ぶ本質的意義と問題解決的な学習の過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を捉えた。

① 英語科・英語活動を学ぶ本質的意義

○英語やその背景にある文化に対する理解を深めること
○英語を用いたコミュニケーションを通して、人と人が分かり合うこと

英語科・英語活動を学ぶ本質を語る上で、世界で最も多く用いられている英語を通して世界の人々とコミュニケーションを図ることの重要性や有用性は欠くことができない。また、多様な価値観や考えをもった人とコミュニケーションを図ることは、人間関係を広げ、自らの生活を豊かにすることができる。英語科・英語活動の学習では、子どもたちが生活ではほとんど用いることがない英語という言葉を用いて、コミュニケーションを図ることが困難な環境で行われる。この環境の中では、相手が伝えたいことを意識して聞こうとする態度や相手を認めようとする態度を養うことができる。その結

果、普段話さない友達ともコミュニケーションを図ることができ、友達の新たな一面を発見し、学校生活においても話すきっかけとなるため、人と人とのつながりを深めることができる。さらに、単元の中で異文化に触れる環境を創り、英語を通して様々な文化に対する理解を深めることで価値観が広がり、多様な個性や考え方を認め合おうとする意識が強化される。そして、このような環境において自らの考えや気持ちが伝わったり相手の考えや気持ちが分かったりする経験を積むことで、コミュニケーションを図る楽しさを実感する子どもを育成することができる。

② 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

本校英語科・英語活動では、「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿と、協働的に学ぶ姿を次のように捉えた。

<p>【「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿】</p> <p>コミュニケーションを図る目的や場面、状況に応じて自らの考えや気持ちを形成し、相手の反応に応じてそれらを再構築し、英語表現や伝え方を改善して伝えること</p> <p>【協働的に学ぶ姿】</p> <p>課題解決に向けて、英語表現を用いて自らの考えや気持ちを伝えたり、質問・返答をしながら聞いたりし、英語表現や伝え方を改善すること</p>

上記の子どもの姿を問題解決的な学習の各過程に具体化し、位置付けた（図2）。

過程	学習活動	「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿	協働的に学ぶ姿
つかむ	<p>コミュニケーションを図る目的や場面、状況に対する単元全体の見通しをもつ</p> <p>課題をつかむ</p>	ALTや教師のモデルを基に、コミュニケーションを図る目的や場面、状況を推察している	自らが推察したコミュニケーションを図る目的や場面、状況を友達と伝え合っている
追究する	<p>英語表現に対する見通しをもつ</p> <p>英語表現を取り込む</p> <p>英語表現を用いて伝え合う</p> <p>英語表現をなぞり書きしたり書き写したりする（英語科）</p> <p>英語表現を用いて、コミュニケーションについて振り返りをする</p> <p>※単位時間ごとに繰り返し行う</p>	コミュニケーションを図る目的や場面、状況及び相手の反応に応じて、自らの考えや気持ちを伝える英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝えている	課題解決に向けて、英語表現を用いて自らの考えや気持ちを伝えたり、質問・返答をしながら聞いたりしている
まとめる	<p>単元で学習した英語表現や既習の英語表現を用いて伝え合い、課題を解決する</p> <p>単元で学習した英語表現や既習の英語表現を用いて、課題の解決状況と相手と分かり合えた程度について振り返りをする</p> <p>※単元に応じて繰り返し行う</p>		課題解決に向けて、英語表現を用いて自らの考えや気持ちを伝えたり、質問・返答をしながら聞いたりすることを楽しんでいる

図2 本校英語科・英語活動の問題解決的な学習の各過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

このような英語科・英語活動の問題解決の各過程において、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことができるように、これまで実践してきた学習指導の工夫とともに、以下のような学習指導の工夫を行う。

(2) 学習指導の工夫

コミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にした課題の設定（ア）

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿の表出を促すために、子どもが考えや気持ちを分かりやすく伝え、主体的にコミュニケーションを図れるようにすることが大切である。そこで、「つかむ」過程においてコミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にした課題を設定する。英語科・英語活動の学習においてコミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にすることはとても重要である。なぜなら、目的や場面、状況が明確になると、子どもは用いる英語表現の選択・組合せができるようになるからである。この学習指導の工夫では、課題の文言の前半に目的、後半に場面や状況を入れることとする。教師が設定する場面や状況によって変わるが、子どもがコミュニケーションを図る目的ごとに単元を以下の4つに分けた。また、これらの目的に応じて、課題をつかむ際に、ALTの話やビデオレター、メールの代読、ALTと教師のモデルのいずれかによって以下の場面や状況の提示を行うこととする。

子どもの目的	提示する場面や状況	単元例	課題例
①主として外国の方に伝え合うこと	聞き手の知りたい情報や聞き手の状況 聞き手が情報を求める根拠となるストーリー性のある現実的な場面や状況	・日本文化 ・地域の魅力	6年「アニメが好きで日本の食文化に興味がある留学生のアンナさんに、日本で楽しんでもらえるように、日本のよさを詳しく紹介できるようになるう」
②主として友達と伝え合うこと	友達の情報を必要とする場面や状況	・好きな物 ・遊び ・誕生日 ・小学校の思い	4年「友達の好みに合った文房具セットを作れるように、友達の好きな色や形を聞いたり答えたりしよう」
③主として場面でのやりとりをすること	身近で子どもたちの生活に起こりうる具体的な場面や状況	・買い物 ・レストラン	5年「丁寧な英語を使って、高級レストランで注文や接客ができるようになるう」
④主として言語や文化への気付きや理解を深めること	他教科と関連のある場面や状況	・アルファベット ・数 ・世界のあいさつ	3年「アルファベットの大文字を見て発音できるように、アルファベットクイズ大会をしよう」(国語との関連)

<具体例 6年「Welcome to Wonderful Gunma！～群馬の魅力を紹介しよう～」>

○提示する場面や状況：聞き手の知りたい情報や聞き手の情報

○方法：メールの代読



I'm Travis. I'm from America. I came to Maebashi last month to study Japanese in Gunma University. I will live in Maebashi for one year. Please tell me some nice restaurants, amusement parks and relaxing spots in Gunma.



群馬大学の留学生のトラヴィスさんにおすすめのレストランを紹介したいな。

目的（何のために）

留学生のトラヴィスさんに群馬でおすすめのレストランや遊園地、リラックスできる場所を知ってもらうため

場面（いつ？どこで？）

群馬に外国の方が来たとき
地元を紹介するとき

状況（誰に？どのように？）

トラヴィスさんに向けて
班ごとに前に出て発表形式で

課題例「留学生のトラヴィスさんに群馬でおすすめのレストランや遊園地、リラックスできる場所を知ってもらえるように、群馬の魅力を英語で紹介できるようになろう」(目的①)

Check ListやUnit Listを基に自らの表現を確認する機会の設定（イ）

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿の表出を促すために、子どもが考えや気持ちを伝える英語表現の内容や伝え方についての十分さや不十分さを自覚できるようにすることが大切である。そこで、5・6年の英語科では、「つかむ」過程において「聞く」「話す（発表）」「話す（やりとり）」の3つの技能（伝え方を含む）について課題を解決した具体的な姿を明確にし、ループリックで示すCheck Listを提示する。3・4年の英語活動では、「聞く」「話す」内容や伝え方を表にしたUnit Listを子どもと一緒に作成する。また、「追究する」及び「まとめる」過程において、英語表現に対する見通しをもつ際や英語表現を用いて伝え合う際に、Check ListやUnit Listを基に自らの表現について確認するよう促す。また、単位時間の最後にCheck ListやUnit Listに自らの表現についてチェックを記入する機会を設定する。

<具体例 6年「This is my dream！～私たちの将来の夢宣言！～」> ○ Check List の例

観点		OK	Good	Excellent	最終 自己評価
聞く		<input type="checkbox"/> 話されていることのおおよその内容の推測	<input type="checkbox"/> 将来の夢の聞き取り	<input type="checkbox"/> 将来の夢と理由の聞き取り	
話す (発表)	内容	<input type="checkbox"/> 単語で自分の将来の夢や理由	<input type="checkbox"/> 文章で自分の将来の夢と理由	<input type="checkbox"/> 文章で自分の将来の夢と複数の理由	
	伝え方	<input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声の大きさ	<input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声の大きさや速さ	<input type="checkbox"/> 笑顔・アイコンタクト <input type="checkbox"/> 相手に伝わらなかつたらジェスチャー・リピート・スローダウン	
話す (やりとり)	内容	<input type="checkbox"/> 単語で将来の夢について質問や返答	<input type="checkbox"/> 文章で将来の夢と理由について質問や返答 <input type="checkbox"/> リアクション	<input type="checkbox"/> 文章で将来の夢の理由としてくわしく知りたいことについて質問や返答 <input type="checkbox"/> リアクション	

<具体例 3年「What's this? ～スリーヒントクイズ大会をしよう～」> ○ Unit List の例

聞く・話す 内容	<input type="checkbox"/> 果物・野菜・動物 などの種類	<input type="checkbox"/> 色	<input type="checkbox"/> 形
	<input type="checkbox"/> 様子	<input type="checkbox"/> クイズの出し方 (これは何?)	<input type="checkbox"/> クイズの答え方
伝え方 	OK		Good 
	<input type="checkbox"/> Volume <input type="checkbox"/> Speed 相手が聞き取りやすい声の大きさや速さでクイズを出したり答えたりしよう <input type="checkbox"/> Smile 笑顔でクイズを出したり答えたりしよう		<input type="checkbox"/> Eye contact 相手の目を見ながらクイズを出したり答えたりしよう <input type="checkbox"/> Gesture 相手にうまくクイズが伝わってなかったらジェスチャーをつけてクイズを出そう <input type="checkbox"/> Reaction クイズに当たっていたらThat's right. はずれたらSorry, no. などと伝えよう

自らの考えや気持ちに合った英語表現の構成や内容の異なる複数のモデルの提示 (ウ)

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿の表出を促すために、子どもの考えや気持ちに合った英語表現の内容や構成の工夫の仕方が分かるようにすることが大切である。そこで、自らの考えや気持ちに合った英語表現の構成や内容の異なる複数のモデルを提示する。この学習指導の工夫では、英語表現に対する見通しをもつ際、ALTや教師がモデルとして話したりホワイトボードに選択・組合せができる英語表現を記述したりして提示する。この学習指導の工夫は、既習の英語表現が多くなる5・6年の英語科の授業において行うこととする。

<具体例 5年「Let's make a trip plan.～海外旅行の計画を紹介しよう～」>

旅行会社の店員と客に分かれ、店員が客に対しておすすめの国を紹介する学習活動

○たくさんのできることを紹介する際のモデル



I recommend Italy. You can eat delicious food, for example spaghetti and pizza. And you can visit the Colosseum. You can buy a venetian glass.

○板書例

相手の希望を聞く場合

What do you want to do?

できることを伝える場合

You can eat/ see /buy/ visit ～.

一番の魅力を強調する場合

My best point is ～.

○一番の魅力を強調して紹介する際のモデル



What do you want to do?

OK. I recommend Palau. My best point is a beautiful sea. You can enjoy water sports and relax.

I want to see a beautiful scenery.



スペインの一番の魅力としてサグラダファミリアを強調したいから "My best point is Sagrada Familia." を加えて紹介してみよう。

5 実践例 5年「This is my HERO ～あこがれの人を紹介しよう～」

(1) 単元の構想

子どもたちは、5年「先生クイズ大会をしよう」で"He/She is a ～ grade teacher." "He/She can ～."や"Can he/she ～?"等の英語表現を用いて、先生の所属学年やできることについて尋ねたり答えたりして先生クイズを出題し合う学習をしてきた。本単元では、"He/She is good at ～ ing." "He/She is ～."を用いて友達に分かりやすくあこがれの人の得意な事や特徴、考えや気持ちを紹介することで、友達の新たな一面を知り、コミュニケーションを図る楽しさを実感することができると考えた。それに向けて、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学び、本単元の目標となる資質・能力を育むことができるように、以下のように単元を構想した(図3)。

目標	あこがれの人について紹介することを通して、英語表現を用いて三人称であこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを表現・理解できる。			
評価 規準	(①知・技)あこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを伝える英語表現を理解している。 あこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを伝える英語表現を英語の音声で発音している。 (②思・判・表)あこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを伝える英語表現の選択・組合せをし、あこがれの人について紹介している。 (③主体的態度)相手の反応を確かめながら、自ら進んであこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを英語を用いて分かりやすく紹介しようとしている。			
言語 事項	Who is your hero? This is my hero. (He/She) is (name). (He/She) is ～ years old. (He/She) is a good (soccer player/baseball player/tennis player/skater/singer/athlete). (He/She) is (cute/cool/great/beautiful). (He/She) can (hit homeruns/dribble fast/spin beautifully/sing well). (He/She) is good at (swimming/dancing/karuta).			
過程	時間	学習活動	「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿	協働的に学ぶ姿
つ か む	1	○ALTのあこがれの人について紹介するモデルを見聞きし、紹介の内容について話し合い、課題をつかむ。 課題 友達のことをもっと詳しく知るために、英語であこがれの人の得意なことやその人についての考えや気持ちを紹介できるようにしよう。	ALTのあこがれの人の特徴やそれに対する自らの考えや気持ちを紹介するモデルを基に、コミュニケーションを図る目的や場面、状況を推察している	ALTのあこがれの人の特徴やそれに対する自らの考えや気持ちを紹介するモデルを基に推察したコミュニケーションを図る目的や場面、状況を友達と伝え合っている
	1 1 1 1 1 1	○職業を表す英語表現を用いたカルタをし、あこがれの人の職業について紹介する。 ○得意なことを表す英語表現を用いたクイズゲームをし、あこがれの人の職業と得意なことについて紹介する。 ○あこがれの人を調べ、紹介する内容を話し合う。 ○身長、年齢、出演作品等の特徴を表す英語表現を用いて、あこがれの人について紹介する。 ○考えや気持ちを表す英語表現を用いて、マッチングゲームをし、あこがれの人について紹介する。 ○あこがれの人とその理由について質問・返答をし、英語表現を書き写してMy HEROポスターを作る。	コミュニケーションを図る目的や場面、状況及び相手の反応に応じて、自らのあこがれの人を紹介する英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝えている	あこがれの人について分かりやすく紹介することに向けて、英語表現を用いてあこがれの人が得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを伝えたり、質問・返答をしながら聞いたりしている
ま と め る	1	○ALTや友達にあこがれの人について分かりやすく紹介する。		あこがれの人について分かりやすく紹介することに向けて、英語表現を用いてあこがれの人の得意なことや特徴、自らの考えや気持ちを伝えたり、質問・返答をしながら聞いたりすることを楽しんでいる

図3 5年「This is my HERO ～あこがれの人を紹介しよう～」における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

なお、本単元において、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことができるように学習指導の工夫を次のように具体化して設定した。(ゴシックは本年度研究における学習指導の工夫)

< 「つかむ」過程 >

- ・コミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にした課題の設定

< 「追究する」・「まとめる」過程 >

- ・子ども同士のモデルを基にコミュニケーションポイントを確認する機会の設定
- ・既習の質問・返答をする英語表現をまとめたQuestion ListやReaction Wordsの提示
- ・Check Listを基に自らの表現を確認する機会の設定
- ・自らの考えや気持ちに合った英語表現の構成や内容の異なる複数のモデルの提示

(2) 学びの実際 ※Hは抽出児, Cはその他の子ども, Tは教師, は「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

① 「つかむ」の過程 (第1時)

単元の導入で子どもは, A L Tの"This is my hero."や"He is an actor.", "He is good at telling jokes."等のあこがれの人を紹介するモデルを聞き, Try シートに聞き取れたことを記述した。それから, モデルで話されていた内容についてグループや学級全体で話し合った。話し合いの後, 教師の問いかけに対して, コミュニケーションを図る目的「お互いのことをもっと知るために」や場面「あこがれの人を紹介する」, 状況「友達と」を見だし, 子どもたちと課題(Unit Goal)を設定した(図4)。

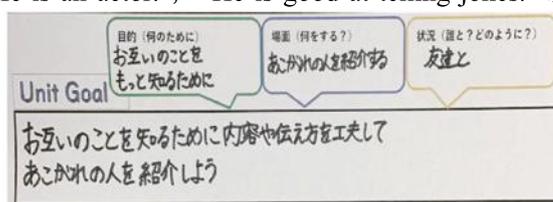


図4 子どもたちと作成したUnit Goal

その後, 課題を解決した具体的な姿を Check Listを提示して確認した(図5)。Hは, モデルで話されていた内容について「職業は俳優で, 彼は強いと紹介していた。」とみんなの前で発表していた。そして, Hは, 第1時の最後に「この学習でできるようになりたいこと」を視点として Try シートに記述をしていた(図6)。この姿は, あこがれの人について分かりやすく紹介することに向けて, A L Tのモデルを基にコミュニケーションを図る目的や場面, 状況について, 友達と伝え合っている姿であり, 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿といえる。

観点		OK	Good	Excellent	★★ 目標達成
話す 場面	内容	<input type="checkbox"/> 話されていることのおおよその内容の活用	<input type="checkbox"/> できることや特徴の聞き取り	<input type="checkbox"/> あこがれの人ができることや特徴, 友達の特徴や気持ちの全てを聞き取り	
	話し方	<input type="checkbox"/> 単語で, できることや特徴	<input type="checkbox"/> 文意でできることや特徴	<input type="checkbox"/> 文意でできることや特徴, 考えや気持ち	
話す (やりとり)	内容	<input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声の大きさ	<input type="checkbox"/> 聞き取りやすい声の大きさや速さ	<input type="checkbox"/> 笑顔・アイコンタクト	
	話し方	<input type="checkbox"/> 文意であこがれの人が誰かについての質問や返答	<input type="checkbox"/> 文意であこがれる理由についての質問や返答	<input type="checkbox"/> 文意であこがれの人について詳しく知りたいことの質問や返答	
		<input type="checkbox"/> リアクション	<input type="checkbox"/> リアクション	<input type="checkbox"/> リアクション	

図5 提示したCheck List

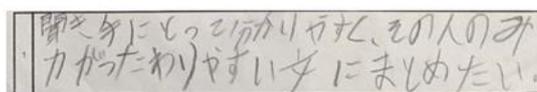


図6 第1時後のHのTryシート

② 「追究する」の過程 (第2時~第7時)

第2・3時では, あこがれの人の職業や得意なことを伝えようと, 職業や得意なことを表す英語表現を繰り返し聞いたり発音したりした後, あこがれの人の職業や得意なことを紹介し合った。この活動の中でHは, 提示された英語表現を見ながら, "...swimmer.", "He is... good at... swimming."と時々止まって伝えていた。第3時後にHは, Check Listの「単語で, できることや特徴」と「聞き取りやすい声の大きさ」にチェックを付けていた。

第4時では、あこがれの人の紹介したい内容を選択しようと、あこがれの人について調べ、紹介する内容を友達と話し合った。その中でHは、「水泳でなく、特にこの選手はバタフライが得意であることを伝えたい。」と発言し、ALTに英語表現を尋ねていた。

第5時では、あこがれの人を自らの考えや気持ちに合わせて紹介しようと、第4時で調べたことを基にグループ内であこがれの人の特徴を紹介する活動に取り組んだ。Hは、調べたことが書いてある紙を見ながら、あこがれの人について"Daiya Seto." "He is a swimmer." "He is good at swimming, butterfly."と詳しく表現していた(図7)。



図7 第5時の得意なことを伝えるHの様子

第5時後にHは、Check Listの「文章で、できることや特徴」にチェックを付けていた。Try シートの記述から、聞き取りやすい声の速さの意識ができるようになったと感じ、自らの考えや気持ちを伝えることを次回の目標としていた。

第6時では、あこがれの人に対する自分の考えや気持ちを伝えようと、まず、"He is cool."や"I want to meet him."等の考えや気持ちを表す英語表現を繰り返し聞いたり発音したりした。その後、自らの考えや気持ちを紹介し合った。Hは、やりとりを繰り返す中で、"He is cool."という英語表現から"He is the best swimmer."という英語表現に変えて紹介をしていた。この姿は、あこがれの人について自らの考えや気持ちを加えて分かりやすく紹介することに向けて、友達の質問や返答に応じて英語表現の選択をし、改善している姿であり、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿であるといえる。

第7時では、次時であこがれの人について紹介しようと、My HERO ポスターを作成した。そして、あこがれの人を紹介するための英語表現を書き写した。

③ 「まとめる」の過程(第8時)

第8時では、導入でALTがあこがれの人を紹介したのに対し、教師が身長や出演作品について質問をし、その内容を加えてALTが再度紹介をした。1回目と2回目の紹介を比較し、子どもが「質問されたことを自分の紹介に取り入れて内容が詳しくなった。」と気づき、めあてを「もっと詳しく My HERO を紹介できるようにしよう」と設定した。また、これまでのCheck Listを基に、まだチェックを付けていない項目を確認し、本時における個人の目標を設定した。Hは本時、考えや気持ちを伝える英語表現を増やすこととアイコンタクトを意識することを目標とした。さらに、教師は、あこがれの人を紹介する表現を問いかけ、複数のモデルを提示した(図8)。その後、子どもたちは前半と後半で紹介者と聞き手に分かれてあこがれの人について紹介し合った。



図8 提示した複数のモデル

次頁は、Hが、紹介者として友達とコミュニケーションを図っていた様子である(図9)。

H:"Hello."

C:"Hello."

H:"This is Daiya Seto."

"He is a swimmer."

"He is... good at butterfly." (ポスターを見ながら、ゆっくり)

"He is the best swimmer."

C:"Do you want to meet him?"

H:"Yes!" (笑顔で)



図9 Hが紹介している様子

このようにHは、あこがれの人を紹介するためにポスターを見ながら、ゆっくりとあこがれの人を紹介していた。

次に教師は、Cを指名して学級全体の前で紹介するよう促した。その後教師が、Cの紹介について、Check Listを



図10 Cが紹介している様子



図11 Check Listで確認する様子

基に良かった所を問いかけた(図10, 11)。Hは、Check Listを確認しながら「声の大きさが良く、ポスターに書かれていることだけでなく色々な特徴があってよかった。」と発言していた。そして、Hは確認したCheck Listを基に、伝え方を意識して相手を替えてあこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを紹介することを繰り返す中で、第8時の最後には、以下のように友達とコミュニケーションを図っていた(図12)。

H:"Hello."

C:"Hello."

H:"This is Daiya Seto."

"He is a swimmer." (相手の目を見ながら笑顔で)

"He is good at butterfly." (相手の目を見ながら大きな声で)

"He is the best swimmer." (笑顔で)

"I want to meet him." (相手の目を見ながら大きな声で)

"Thank you." (笑顔で)

C:"Great!"



図12 Hが紹介している様子

このように、Hは"I want to meet him."を紹介に加え、調べた情報を見ながらではなく、聞き手の目を見ながら笑顔であこがれの人について紹介していた。また、Hは複数ある特徴、考えや気持ちを伝える英語表現の中から自らの考えや気持ちに合わせて"He is good at butterfly."等の英語表現を選択・組合せをして伝えていた。この姿は、あこがれの人について分かりやすく紹介することに向けて、友

達の質問や返答に応じて、英語表現や伝え方の選択・組合せをし、伝え合うことを楽しんでいる姿である。よって、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿といえる。

その後、Hは、Check Listの「文章で、できることや特徴、考えや気持ち」「笑顔・アイコンタクト」にチェックを付けていた。また、Hは単元を通して自分のあこがれの人について詳しく紹介できたことと、友達なあこがれの人を知ることができたことに達成感を感じていた(図13, 14)。

Check List		OK	Good	Excellent	評価
聞く	経緯	話されていることのおおまか よその内容の整理	話されていることやお特徴の聞き取り	話されている人ができること や特徴、友達の考えや気持ち の全ての聞き取り	○
	内容	話していることの特徴	話していることの特徴	話していることの特徴、 考えや気持ち	○
話す (傾聴)	経緯	話取りやすい声の大きさ	話取りやすい声の大きさや 速さ	話取りやすい声の大きさや特徴	○
	内容	話取りやすい声の大きさ	話取りやすい声の大きさや 速さ	話取りやすい声の大きさや特徴	○
話す (やりとり)	経緯	文章であこがれの人が誰か かについての質問や返答	文章であこがれる理由について の質問や返答	文章であこがれの人について詳 しく知りたいことの質問や返答	○
	内容	文章であこがれの人について の質問や返答	文章であこがれる理由について の質問や返答	文章であこがれの人について詳 しく知りたいことの質問や返答	○

図13 第8時後のHのCheck List

単元全体を通して、Hは自らの考えや気持ちに応じて英語表現や伝え方の選択・組合せをし、友達とあこがれの人を主体的に紹介し合う姿が見られた。この姿が見られた要因は2点考えられる。1点目は、コミュニケーションを図

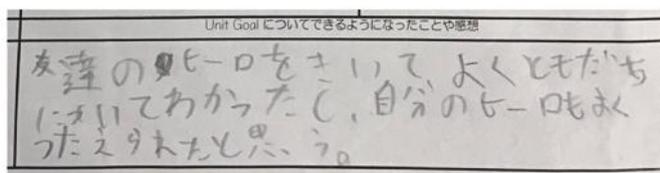


図14 第8時後のHのTryシート

る目的や場面、状況を明確にした課題を設定したことや、Check Listを基に自らの表現を確認する機会を設定したことにより、課題を解決した具体的な姿を意識し、伝える際に改善すべき点に分かりやすくなったことによるものである。2点目は、自らの考えや気持ちに合った英語表現の構成や内容の異なる複数のモデルの提示したことにより、相手に分かりやすく伝えるための英語表現の内容や構成の工夫の仕方が分かりやすくなり、主体的にコミュニケーションを図ることにつながったことによるものである。

学級全体においても、紹介する内容や伝え方の改善を繰り返すことでCheck Listの最終評価で各項目において"Excellent"を選択する子どもが多く見られ、Unit Goalに対して「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿につながる「自分の伝え方について」と協働的に学ぶ姿につながる「友達のことで新たに分かったことについて」の2つの観点で振り返りをする子どもが半数を超えていた。第8時ではTryシートの振り返りの記述から、相手の目を見て聞き取りやすい声の大きさや速さであこがれの人について紹介する子どもが9割ほどだった。

以上のように、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶための学習指導の工夫を行ったことにより、主体的に"He/She is good at ~ ing." "He/She is ~ ."等の英語表現を用いて相手に配慮しながらあこがれの人を紹介する資質・能力の育成につながったと考えられる。

6 成果と課題

本校英語科・英語活動における問題解決的な学習の中で、「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」の育成に向け、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿に焦点を当てて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○コミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にした課題や、Check Listを基に自らの表現を確認する機会を設定したり、自らの考えや気持ちに合った英語表現の構成や内容の異なる複数のモデルを提示したりしたことで、子どもが課題を解決した具体的な姿を意識し、伝える際に改善すべき点や相手に分かりやすく伝えるための英語表現の内容や構成の仕方が分かるようになった。このことから、自らの考えや気持ちを伝える英語表現や伝え方の選択・組合せをし、英語表現や伝え方を改善しながら自らの考えや気持ちを伝える姿につながったと考えられる。

- 単元を通して、自らの考えや気持ちを伝えることを繰り返すことで、英語表現を獲得し、自ら進んで相手の反応を確かめながら自らの考えや気持ちを伝え合うことができた。このことから、「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」の育成につながったと考えられる。
- 聞き手としてさらに自由に既習の英語表現の中から選択・組合せをし、質問・返答ができるようにするためには、既習の英語表現を用いて伝え合う帯活動で提示する英語表現の内容や回数を工夫する必要がある。それにより、「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」をより効果的に育成できると考える。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』平成30年2月，開隆堂出版。
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』平成30年2月，開隆堂出版。
- ・文部科学省【編著】『初等教育資料9月号』令和元年8月，東洋館出版社。
- ・ダネル スティーブンス，アントニア レビ【著】『大学教員のためのルーブリック評価入門』2014年3月，玉川大学出版部。